

オリーブの樹

第110号

2012年3月18日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



祖国の一年

行方定まらぬ

耐えてなお

3月
怒り 哀しみ

目次

- P 2 1月2月の歌 重信房子
- P 3 独居より 重信房子
- P14 3・18 反弹圧の集いに集まれたみなさんに 重信房子
- P15 2・25 連合赤軍殉教者追悼の会へ 重信房子
- P16 アラブ物語（18）シンガポール・クウェート作戦の時代（4） 重信房子
- P20 「重信房子のいた時代」評 OM1

重信房子さんを支える会

一月二月の歌

脱原発ノ一モアヒロシマフクシマと民の声満ち草むか祖国よ

双眼に熱い決意をたぎらせて鬼とならむと君は発ちたり
起床してカーテンを開ける一瞬の故なき喜び獄でも変わらぬ

春雷に光轟く獄の真夜窓辺に立てば絨雪景色

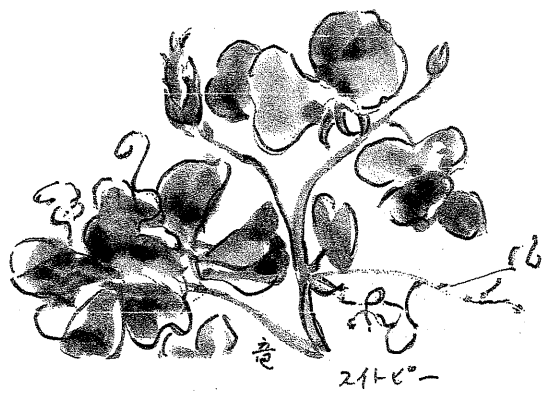
雪舞えば雪に埋もれ怯えつつ何故と途絶えし友を弔う

語尾強く言い切ってから寂しさがこみあげて来たり別れの朝は

霜に染む獄庭降り立つオナガの群跳躍するたび金色に光りぬ

びわの花白き先に遠い日の思い出せない友の名さぐりぬ

万物に遍く注ぐ初日浴び鬪春とせむフクシマからパレスチナまで



21トビ

独居よい 1月11日~3月12日

命拾いの再スタートです。感謝と連帯を

重信 房子

とっばらって笑ってしまいます。みんなに感謝です。
Mさん初便り感謝。はがき日誌がなんだか日常の一つのように心待ちしてしまいます。Sちゃんたちの新学期、それに新しい手作りスペースの試み、成功しそうな予感！ デジカメ歌人の「小寒」の初便り感謝。
“響き止む救急の音また響く冬の町内胸騒ぎする”。冬は特にそうです。

1月15日 寒い上に、副作用で体調すぐれずの週末。今日は東京でも最高気温 6.5℃。八王子の寒さはこれから本格化です。

野田改造内閣発足。やるだろうなと思ったら案の定。平岡法務大臣を目立たぬように変えましたね。山岡だ一川だとか言いつつ、増税シフト内閣に死刑執行をしなかった法相も変えたのです。かつての自民党よりも平気で米政府や官僚に乗って政治家気取りの野田内閣。「何人も首相が変わるのは許されない」という風潮をマスコミがつくりあげて延命させよう。

1月17日 今年に入って昨日だけ曇り空、あとはずっと晴天。今日も起床時曇り空だったのですが10時頃から晴天。曇り空は寒々としていますが、陽が差すと冬でも気持は晴々。今日は阪神大震災から17年目と想っていたら、昼に小さな地震。元旦にも少し揺れた地震もあったし、今年も天災人災はありそうです。今の政治展開をみていると、人災は避けられそうもないと思わせます。

今日はコーラスにも参加。80歳の元気なソプラノ歌手の先生はステキな着物で今年初の顔合わせです。この先生の教え方の熱心さ話の楽しく面白さは患者たちがみんな好きです。窓ガラスをビリビリふるわすソプラノは秋川ソプラノにも勝るとも劣らない80歳！今日は正月でもあり、「喜びの歌」を習い、先生が低音部でハモリ、なかなかの歌声のみんな。それと「鼻」。どこにアクセントを入れるか、音符の意味もしっかり丁寧に教えてくれて楽しくあつという間の一時間。

M子さんからお便り。獄中処遇批判や野田政権批判、それに彼の漁のキハダマグロ、カツオもメジナもアジも写真で大満足の姿。“カゲキ派と言われし旧友(とも)の大漁のメジナキハダ抱き笑む写真”と歌がこぼれました。資料も感謝。Mさんは地域に根ざして劇団

1月11日 「小寒」を経て、寒さいや増し、最低気温はいつも零下。最高気温も7℃くらいで寒い。担当医より1月4日採血の腫瘍マーカーの結果を聞きました。また微増でCEA10.6、CA19-9は87.2です。9月に6.9まで下がったCEAが以来上昇中。次の治療「FOLFIRI療法」は決めているのですが、1年で薬が効かなくなり、これまでと同じだと次がないので困ったものです。「進行性ガン」はこうした化学療法で寿命をのばすしかないようです。まだ刑務所では「分子標的治療」を行っていないので、先々の新薬の情報もないので、何らかの打開を望みたいところです。

11時から昼食をはさんで3時半まで点滴。その間に処遇より「告知」で「Yさんよりの1月10日受信の手紙のうち、一部抹消の上交付」とのこと。前回は手紙そのものが不許可でしたが、今回は「獄中の他の人のことは書かないで」と言ったので届くようです。

資料など待っていた書類や「創」などの他、四方田先生より季刊「ココア共和国」が届きました。その巻頭詩は四方田先生の「ニザール」という詩。丸岡さんのことです。こんな詩を書くことが私もあるだろうかと思いつつ読みました。感謝。

1月12日 ずっと晴天続き。冬の晴天はホッとしますが、八王子は最高6℃最高-5℃の寒さです。午後今年初の姉の面会。予定していなかったのでメモ準備はなかったけど、その分あれこれと思い思いの話ができて楽しい。正月の楽しい様子を語ってくれました。それにこちらの休み中の話や伝言も。

今日は本もたくさん資料共々「現代用語の基礎知識」など。それにYさんありがとう！ 12月の「土曜会」のくわしい様子。第一部は経産省前土曜会主催柳家三壽の「テント寄席」の様子。第二部はそのあとみんなで「祭」忘年会。忘年会も「今年の反省と来年の展望を語る」と、明大一部二部、生田校舎の面々に加えて、日大、芝工大、ザ・ジャーナル反TPPのホノルルAPECに行った土曜会常連の若者たち。まじめな報告につづいて三壽が第一部ののりで、故郷の気仙沼の様子「特区だから家を建てちゃだめ」という「仕事もない」「電気もない」故里の話を落語家らしく笑わせる独演。「土曜会」の報告は、いつも20歳のころの仲間たちの変わらない声や表情がリアルに伝わって、年月を

オリーブの樹 第110号

活動の様子。Kさんは近くの神社のどんど焼きに参加してきました。若い時には神社なんかと思ひながら大木を見ているだけで心が落ちつき、と亡夫と冬景色の京都を歩いたことを思い出してこんな一首“冬に裸木稜と立つ我思うかくありたいと心ひきしめ”。

1月18日 晴天。霜が枯芝を白く染めて、うっすら雪が積もったみたい。今日は少し暖かそうな7℃〜2℃の八王子。今日のグラウンドでの運動、10時半から11時。グラウンドを1周目は走って、あとは足早に歩き。陽が暖かいせいかうっすらと汗をかきました。午後は領置品の整理、「禁止パンフ」や房内所持できずにあったものなど宅送手続や破棄など。

ちょうどPLOのアブドラボ事務局長が訪日しているみたいです。朝日新聞のインタビューに答えています。去年5月にハマースと「和解案」に合意し、今年5月に自治政府大統領と自治評議会の選挙を行うことになっていました。アッバス大統領は出馬しないとこれまで表明してきたのですが、アブドラボは「アッバス大統領が出馬しない理由はない」とインタビューで述べています。アッバスらは特権や利権を手放すはずがないので、どう有利に再選させるかをねらっているのでしょう。米・イスラエルはハマースが政権に関わるなら財政支援を停止すると常々述べてはファタハを支持しています。アラブの変化の動きや去年にイスラエル兵一人と捕虜交換で1027人を解放したハマースの動き、ユネスコがパレスチナ国家を認め、CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体。33カ国。2011年12月2日創設）のベネズエラやキューバのイニシアチブによるパレスチナ国家承認の動向など、足元、世界をみながら、パレスチナは今年新しい年になるのでしょうか。もちろん「国家」として承認されても占領と弾圧は続き、経済も封鎖された中で、汎アラブ、エジプトや中東全体の変革の中であって微妙な時です。西側はアラブの国々を親欧米の「ネオオスマントルコ」のような変化を求め、トルコやカタールを後押ししながら「おとなしい」イスラーム国家を妥協点としているようです。イスラエルの安全保障と石油利権のために。その分、「反イスラエル・反米勢力」を支援するシーア派系勢力やシーア派系国家（イラン、シリア）に対して宗派的イラン包囲や攻撃が広がり、危険な衝突は今後もさらにイラクをも巻き込んで暴発しそうです。そうした中にシリアの現情も捉えられないわけにはいきません。

1月20日 初雪！ 起床時から粉雪が降りやまず。

でも前夜来の雨で積もりません。毎朝と午後3:30から1時間スチームが入り、去年の冷蔵庫の寒さより楽です。去年は午後にスチームが入らず、冷たい部屋の冷たい夕食にはお腹が受けつけず、困ったものでした。カイロのおかげもあってしもやけもなく、寒いけど我慢のできる今年です。

夕方、宮崎先生からのお便りで、「オリーブの樹」が発行され読まれていることを知りました。こちらには来週に届くでしょう。

雪をみつめていると「連赤」の仲間たちを思い出します。昨日は東大安田講堂の攻防戦最後の日、そして72年の今頃は連合赤軍の破綻が進行していた40年前。遠山さんと今でも心の中で対話することが多くあります。“雪山に倒れし友の声聞こゆあなたがほしい花いちもんめ”

1月23日 今日は春節。週末21日大寒はみぞれ2日は曇天と寒い日づきでしたが、今日はそうでもない。寒さを覚悟してベランダの運動に出ると、耳が痛いほどの寒さでもないし。といっても4℃くらいか。今日は担当の人から2月1日ペペという獄中慰問の歌手の公演があるので参加を問われて、参加すると答えました。

午後「オリーブの樹」109号ありがとう！届きました！竜年の竜子さんの表紙はずばらしい！カラーでないのが残念です。ありがとうございます！冬に咲く花々、水仙も椿もありがとうございます！竜子さんにとって、新しいことを始める年になりますように!! 叙事詩「風の共和国 ビューフォート城から」は去年「新・原詩人」に載せたものです。いただくお便りをもっと「オリーブの樹」に載せる方がいいかなと思っています。みんなの心のこもったお便りを私だけ読んでいてはもったいないし、読者のみんなも目誌だけではつまらないかと。でも「オリーブの樹」が届くと、またがんばりたくなってしまいます。

1月24日 昨夜から降りだした雪は、明け方、外をのぞくと銀世界の美しさ。ところが今日はスチーム故障。修理で最高4℃最低-2℃の八王子は寒すぎます。太陽は輝いているのですが樹氷も溶けず、外の温度はずいぶん低そう。運動はベランダも雪で中止。入浴は寒い寒い！温まってもぐんと冷えます。これからまた降りそうで、雪に慣れていない都心ではころんだり事故も多いとか。

Kさんの庭にピンクの佐助が咲いているのですね。雪のまっ白な庭に佐助、それに亡夫が好きだった何種

類かの椿がこれから美しいとのこと。落ち椿もまた美しいですね。大寒のデジカメ歌人の写真も四首もいいですね。“枯草の雪の川筋自己の畏に掛かったようにぐにゅと倒れる”などです。他お便り感謝。ちょうど2月1日のペペの公演の話聞いたあと、Mさんの「新年のご挨拶」ピラの中に、女性デュオ「Paix2(ペペ)」の300回「プリズンコンサート達成の祝福の集い」が1月22日にあるとのお知らせ。それでは八王子には301回目の「プリズンコンサート」でしょうか。2月1日は是非楽しめます。

1月25日 昨日の修理が終わらず今朝もスチームなしで寒い！でも午後にはなおって入りました！ホ！今日はやっぱり6℃と-3℃で寒く、雪は溶けていませんが、雪かきで芝生のまん中をあけてくれたので、10時半からグラウンドで運動ができました。まわりの雪は低温のため水分がなくカリカリと凍っています。上からは輝く太陽が陽を注いでいるのに。でも気持ちよく雪の間をウォーキング。

房に戻って診察。昨日の採血の結果。白血球も3530、血小板、ヘモグロビンも自力で正常状態なので、次に1月31日もう一度血液検査の上、OKなら2月1日から第16クルールのXELOX療法に入るとのこと。アッ！治療ならペペのコンサート見に行けなくなる！また午後には婦人科の医者による子宮の細胞検査と今日は多忙。

竜子さんからの冬いちごのステキな絵とお便りに気持ちをリラックスして読みました。ありがとうございます。春雷！“春雷に光り轟く獄の真夜窓辺に立てば総雪景色”そちらも春雷でしたか。私もそんな一首を詠みました。いちごを飾っています！それから今日の新聞に、経産省テントに対し、24日「自主的な立ち退き」を求めたとのこと。9月11日から15,000人の署名を集め「脱原発の平和の誓い」なのに！寄席もやったところ。その多くの人びとの集いによって、全国、世界への誓いとしてさらにスクラムで、立ち退きをあきらめさせよう！

1月27日 24日の雪はまだ溶けていない。あれだけ陽が照っても寒いためでしょう。今朝はこの冬一番の冷え込み、-4℃の八王子です。

中東ではエジプトでイスラーム政党中心の議会発足。中東に居る人なら当然の成り行きとと思っているでしょう。今後はイスラーム内部の矛盾がはげしくなるかどうかは、外部米欧勢力の介入によってです。シリアに対しては国連での新しい「対シリア決議案」が目論ま

れていますが、これも「アサド大統領からシヤラ副大統領への政権委譲を求める内容」とのことで驚かされます。シヤラ副大統領はスンニー派でシーア派アラウイのアサド大統領とはちがっています。サウジ、カタールらのシーア派と対立しているスンニー派の支援にある反体制派を、ますます宗派的対立に持ち込む誘い水のようにシヤラ副大統領への権力委譲を求めています。政治的な要求だったものが宗派対立を広げ、「穏健派だ」「過激派だ」「シーア派だ」「スンニー派だ」と植民地主義の「イスラーム化」が進んでいきそうです。

夕方Mさんよりの東拘以来の便りで、彼らの応援しているペペが八王子に行くので是非参加を！とのこと。こちらは行きたいのですが、31日の血液検査の結果次第なのです。

1月30日 もう一月も終り。1月28日は3℃〜4℃、29日は4℃〜5℃と、最高温度も最低温度も低くなっています。今日は「所内生活の心得」が新しく配布されました。「天災事変」の心得も加わっています。一番の私の注目は面会についてです。これまでのにはどう記されていたか十分思い出せませんが、新しい規定は以下「面会できる相手方は原則として次のとおりです。(ア)親族(イ)婚姻関係の調整、訴訟の遂行、事業の維持その他本人の身分上、法律上又は業務上の重大な利害に係る用務の処理の必要なもの(ウ)厚生保護に関係のあるもの、釈放後雇用してもらう予定の者、その他改善厚生に資すると認められる者」です。何だか親族以外むずかしそう……。改善厚生に資す！旧友たちは去年10月まで認められていたのに。でも右規定を理解し、具体的にどうかチャンスを活かしてください！

Mさんからお便り届いています。「国賠訴訟」のことも。交通権をめぐる初のケースとのこと。大事な意義深い闘いの観点からお便りはスミ塗りされていません。感謝です。またUさんから3・18が反弾連の集いとのこと。ちょうど短い文を2月と書いてあいつを書いたのですが、2月末くらいに送るようになります。また今日運動の時に、点滴とペペコンサートが重なって参加できないと話していたら、係の方が話をしてくれたようで、点滴は2月2日(木)になりました。2月1日のペペコンサートは行けそうです。

1月31日 今日は1月尽。早いものです。ちょうど姉が1月最後の面会に来てくれました。メイは取材旅行中とのこと、多忙のよう。中東は今イランもシリアも激しい攻防の中、欧米の新植民地支配という現地で

捉えるとまた違う実相も見えてしまう。竜子さんに
童年の孫は生まれたでしょうか。旧友の夫竜子夫人娘
と孫童年家族に幸あれ!

2月1日 朝放送がありました。「ペペコンサートは今日
は中止、出演者がインフルエンザ罹患のため、日を
改めて行う」とのこと!今日はグラウンドの運動に出
ると、みな「ペペのコンサート残念ねー!」と、口々
に話しています。

2月3日 節分。鬼のお面の絵を描いて机の上に置い
てにらめっこ。今日も寒い。昨日は最高でも4℃最低
は-5℃。今日も5℃から-6℃と寒さが続き、日本全
土寒波と雪も例年にない積雪とのこと。運動でベラン
ダに出て今日で見納めの千日紅をつついたり、まだ豪
華な盛りを保っている葉ボタンを見ながら冷たい空気
に抗うようにウォーキング。今日はまた手術から3年
目の2月3日です。08年の暮れに大腸ガン(横行結腸
とS状結腸に各1ヶ所ずつ)と判明し、09年1月
に大阪医療刑務所に移監され、そこで2月3日に手術
しました。その開腹手術で大腸ガンの他に、より悪性
度の高い小腸ガンが発見されてそれも摘出し、3ヶ所
の手術を行いました。名前を聞かれて昼寝から覚めた
ような、ごく自然な麻酔からのめざめでした。そんな
2月3日からもう3年。

再発の姿は見えないが、「進行性のガン」が血液を通
してうごめいているため、抗ガン剤治療で腫瘍マーカ
ーの数値を下げてはいるのですが、10年12月8王子
で始めた「XELOX療法」も去年9月までは効いて腫瘍
マーカーを下げていましたが、それ以降はまたマーカー
が上昇しはじめています。次の薬の選択肢は予定し
て決めているのですが、それがまた1年以内に効か
なくなると、「次の選択肢」はないのです。分子標的治療
は刑務所治療のシステムでは副作用に緊急対応できな
いため、まだ全国的にやっていませんが、それが可能
になれば、一つの「次の選択肢」が成立するのですが。
獄中医療のシステムや体制の充実改善なしには、いつ

でも手術に対応可能な緊急体制は取れません。治療の
選択肢が一般社会でできる「分子標的治療」が獄にい
てもできるのは、いつでしょうか。ガンの進行と時間
との競争のようです。

夕膳に「福豆」と記された節分豆が届きました。た
だでさえ短い時間の15分くらいの夕食に豆も食べて、
袋は残飯と一緒に出さないとダメなので。ご飯
を残して豆を食べながら、福は内鬼は外!と祈りつつ。
ここでは外へ豆を放つたりする隙間もないので食べる
だけです。ほんのちよつとの豆ですけど。

2月6日 朝曇っていると思ったら雨。一日中冷たい
雨です。新聞では4日の国連安保理で、対シリア制裁
決議に対してロシア・中国が「拒否権」を行使して廃
案になったとのこと。レバノン・パレスチナの私の旧
友たちはホっとしていることでしょうか。リビアのよ
うに軍事的にも米欧の介入が広がれば、イスラエルと組
んでイラン爆撃も一挙的に進み、さらに中東全体が混
乱と反乱戦争に投げ込まれるからです。「民主化」を後
押しする米欧は、アラブの新しい親欧米勢力とイスラ
エルが中東支配をすることを狙っていて、これからも
続けるでしょう。もっとも非民主的なサウジアラビア
やヨルダン親米スンニー派政権と連合して、「反米欧」
のイランや反帝勢力をシリア政権の解体と同時に狙っ
てくるでしょう。ロシアや中国が「自国の利害」にも
とづいて「拒否権」を行使したとしても、中東の反帝
勢力は歓迎しているでしょう。それが一時的なもので
あるとしても、民衆の望む「反イスラエル反シオニズ
ムにもとづくアラブの民主化」がすり替えられ、変質
させられていくことを許さない多様な闘いがこれから
も続くはず。イスラームの「規範」にもとづいて
さらにその中で「階級闘争」のごとく進みながら、全
体として「イスラーム化」が進んでいき、アラブの民
衆の望む「反イスラエル反シオニズムの民主化」が、
やはり力を持っていきそうです。日本ではアメリカの
見方や「アサドシリア批判」で新聞は埋まっていますが、
それは一側面です。

午後、手紙や資料多数を受け取りました。感謝。資
料に「丸岡修戦士からの遺言状」高山文彦氏の「g2」
に載った文コピーもありました。丸岡同志の誠実な人
柄を丁寧に浮き彫りにしつつ、国家権力の拷問による
報復「死刑」(執行停止を認めない条件下、苦痛の中で
戦死していく様子、まさに判決のない死刑です)のあ
りさまを怒りの筆を抑えつつ記しています。同時にま
た戦死したこうした丸岡さんをはじめみな苦勞はあつ
ても書かれていない生き輝いて闘いを誇りとしていた

朗らかな側面もしかし忘れてほしくないです。

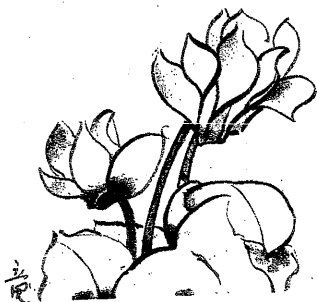
「処遇基礎知識」やKさんからはカレンダー。Kさん
からは「通販生活」なども受け取りました。Kさんよ
り2月25日に「連合赤軍殉難者追悼の会」のことも
教えてくれました。今日午後には、「処遇統括」の人が
房に来て、「新法128条によりある人、と言ってもも
うご存知でしょうか、彼からの手紙は受信不許可。2
月3日の受信物も釈放時に交付」とのこと。午前中に、
元中核派静岡大のKさんについて、「どういう知り合
いか?」と聞きに来ました。東拘で文通していたこと、
面識はないことを答えたのが、128条の禁止措置に
なったのか?「手紙の文面によるものか?」と聞いた
ところ、そうではなく、本人の過去の犯歴とか刑務歴
など、ふさわしくない人物と判断したというような回
答でした。受刑処遇前、面識のないものは、とくに元
活動家は文通もダメなのか?夕方にまた資料やお手
紙受け取り、Kさんのやぎ農園も人数増えて、良い雰
囲気で進んでいるのですね。Uさんありがとう、お便
りも岩見沢ラッセル車の長万部駅もおうちの山茶花の
写真もうれしい情景。Uさんから「明大2・2協定」
のこと書かれていて思い出しました。67年でしたね、
そのあと2・11が大雪の初の「建国記念日」。雪にな
るとやっぱり遠山さんが浮かびます。40年目の連赤、
もう少しすると「浅間山荘」の闘いなのですね。Mさ
ん、娘の小学1年生の俳句がいいですね!「つめたい
ねねむけざましの冷やっこ」、
“大こんはあまさまからもあるんだよ”

2月8日 今日第16クルールの抗ガン剤治療の日な
ので、予定のグラウンド運動もTVも辞退。昨日まで
の雨に変わって、曇りながら晴れ間ののぞく朝。点滴
治療10時半の始まり前にベランダでの運動は許可さ
れて出かけました。歩いているうちに曇った空から陽
が差し、今日一日晴れそうとのこと。戻って11時前
に診察室へ。今日は担当医出張不在で医務がCVポ
ートに針を装着。(東拘や大阪医療刑では注射は看護師で
医師は行わないが、八王子は医師が行う。血液検査の
採血は看護師が行うが。)その際採血検査の腫瘍マーカ
ーがまた10.6から12.9に上昇していました。点滴は
14時に終了。今4時、外は青空に少し夕焼けの美し
い時。

2月9日 今日は快晴、気温6℃〜5℃、やっぱり
寒い。ベランダの運動房は青一色の空に陽が差して暖
かい。今日は母の誕生日、生きていたら94歳。でも
05年に亡くなっていますけど。もう白梅の季節と母

を思い出しつつウォーキング。房に戻って昨日届いた
「創」を読んでいて、あ!とびっくり。私の文章の舌
たらずで誤解を与えてしまっているのを発見!申し
訳ないことをしました。「創」3月号で、柳美里さんと
山本直樹さんが、「連合赤軍事件40周年と震災後一
年」の対談を読んでいたなら、柳さんの発言の中に、
「日本赤軍の重信房子さんが獄中で書いた3月16日
の日記に興味深い記述がありました」として、21歳
の私が、のちに双葉町長となった岩本忠夫さんの67
年の県会議員選挙に『応援弁士』として走りまわっ
ていたこと。そして、「原発ができれば地元で雇用が生ま
れ出稼ぎに行かなくて済むことになると岩本さんの
主張に同意した重信さんは、『双葉の町にも浪江の町に
も春がやってまいりました。しかし父の居ない、兄の
居ない、これが本当の春と言えるのでしょうか?』と出
稼ぎ問題解決の道として、原発誘致を地元住民に訴え
たと言います。そして岩本さんは落選後、双葉町長に
なって、原発を誘致するわけです」と柳さんは述べて
います。黒線のここは私の文章の舌足らずのため誤解
された箇所です。(1回便箋7枚1ヵ月5日に制約され
ている書き魔の私はいつも文章をつめこみ、舌たらず
です。)当時の社会党は反原発の先鋒で闘っていました。
岩本さんも当時まだ未着手(多分建設は決まっていた
かも)の双葉反原発でリーダーシップをとっていました。
自民党は出稼ぎ対策原発誘致論、社会党は地場産
業を活性化させ反原発で、出稼ぎ対策論でした。岩本
さんは熱血闘士で、青年たちがまわりに集まっていま
した。一緒に選挙に取り組んでいた人に、昔福島双葉
で岩本さんに誘われて、今も一貫して反原発リーダ
ーの石丸さんという人がいて、昨年10月(28日号?)
の週刊朝日に岩本さんのこと述べていましたが、71
年に県議員に岩本さんは当選しました。その後東電
の金力のあれこれ妨害で落選、岩本さんが政治家引退
を決めたところで(多分岩本さんも双葉をよくするの
は、やっぱり東電に頼るしかないのかと考えたでし
ょう。社会党もやめたようです)乞われて町長として原
発推進に転じたとのことでした。それでアラブで「原
発推進町長」になった記事を読んで、昔とちがうこと
に私はびっくりしたのでした。山本直樹さんは東拘に
面会に来て下さったり面識はありますが、柳さんには
ありません。篠田編集長に伝えてもらおうと思ってい
ます。

また今日は2月23日に落語公演会が行われるとの
ことです。経産省で、反原発寄席(止せ!)をやった
旧友たけしも柳家一門で来るか。ダメか……。クラ
ケン2月4日土曜会新年会の様子の一部と次の私の抗



ガン剤治療「FOLFIRI」のこと、早速伝えてくれてありがとう！ Tさん楽しいお便り、「オリーブの樹」の投稿「私の重信房子の居た時代」で、友人も広がっていいですね！それが機会で会えたHさんによろしく言ってください。同じ宮崎なんですね！当時Hさんは中核派で、和泉でRさんらにいじめられたとニコニコしながら面会で話していた闘志ある良識派。今は土曜会もデモ一緒ですって！いいですね。闘う同窓生ネット！「立春」のデジカメ歌人。Mさんよりのお便り、それに姉より。メイはまだ帰国していないのですね。中東はいろいろ取材しがいがあるし、アルジャジーラの仕事もあるでしょう。Tさん雑誌類ありがとう。「紙の爆弾」も届きました。2月生まれの仲間たち友人たち祝。TさんもTさんも！

2月12日 今日外は陽がいい。でも寒さは同じ。昨日は3・11大震災から11ヶ月目。脱原発の集いが日本の各地であり、東京・代々木公園には1万2千人が参加したとの「No! NUKES!」を掲げた写真と記事が出ています。もうすぐ1年になろうとする大震災。ふりかえると、いまだに何も解決しえず「脱原発」でなく、いかにこれまでのまま「原発輸出」や企業優遇の「消費税増税」や官僚が力を噴き返し、政治家がいかに無能かを晒した日々でした。アラブやヨーロッパや東欧、中東の危機的なこれからの動向に、日本の脱原発から抜本的変化へと辺境で夢想する週末です。ちょうど読んでいた「選択」2月号に「現役社員が『議員』になって利益誘導東電『地方議会工作』の呆れた実態」という記事を読んで、こんなのは犯罪じゃないのかと憤ります。何人も東電現役社員の議員リストを公表した記事です。一例は「練馬区議石黒達男氏。議員報酬年間約1000万円、政務調査費250万円。これに東電の給料で、軽く2000万円を越す。さらに政治献金が加わる。2010年の場合、同氏の政治団体に「東電労組政治連盟」から1500万円の政治献金があったことがわかっている。合計でざっと3500万円だ。新人とはいえ、活動資金は潤沢だ」と記されている。こうした「東電現役議員による原発視察ツアー」は八王子市でもなされている。案内は八王子支店所属の相澤耕太議員、高速増殖炉もんじゅ、柏崎刈羽原発、青森日本原燃などたびたび訪問している。そして原子力政策に前向きな内容の報告書をつくっている」と記事は具体的に示しています。謀略機関のシステム手口がまかり通っていたのを知りました。こんなふうに支配層の都合でマスコミも地方議会も暮らしも洗脳されている日本。重症ですね！

2月13日 週明け。今日は食欲も出てきました。半分以上、朝、昼、夕と食べました。ベランダに出ると寒いけれど、陽が差しはじめています。隙間から庭に春の気配を捜しましたがまだ徴候はありません。友人たちのお便りも寒さを気遣ってくださるのが多いです。ありがとうございます。

Tさんからは栃木で面会でできた話が書かれています。元気そうですね。でも担当より「これが限度、今後書かないように」と言われてしまいました。泉水さんの公判の方もがんばっておられる様子。前向きな打開策が泉水さんとの再面会に結びつけばいいのですが！Mさんお便りありがとう。3月も「3・10パイパイ原発京都」「3・11さよなら原発関西1万人行動」「イラク戦争開戦9周年」「パレスチナ土地の日」「3・18反弾圧集会」と春の躍動計画ですね。

2月15日 今日婦人科の診察。1月25日に子宮頸部と体部（奥の壁）の細胞検査を行ったのですが、その結果を伝えてくれました。診察室に入ると担当医も医務部長も同席されています。これは異常があったのだなと思いました。婦人科医は「細胞検査の結果子宮頸部の方は異常なしでしたが、体部の方にきわめてガンの疑いの強い細胞が発見され、ガンの疑いが強い。機械を入れての検査方法はあるが、『留水腫』があり機械は入らない。ムリに機械を入れるとガンが飛び散ったり破損させてしまう恐れがある。子宮を摘出して細胞を調べるしかない。疑いが強いが確実ではないが、卵巣腫瘍（卵巣嚢腫）もあり、安全のためには子宮と卵巣の全摘手術が望ましい」との診察でした。私も不安定な状態にある子宮と卵巣を摘出した方がよいと同意しました。ただ抗ガン剤治療と併用はできないので、現在の2月8日から行っているXELOX療法の第16クルの影響が抜ける「2月8日から3〜4週間後」の手術を予定することになりました。2月7日の血液検査の結果腫瘍マーカーのメルクマールになっているCEAが12.9と上向き過程にあり、抗ガン剤治療が中断になるのは気になりますが、担当医とも話して、まず婦人科の手術を優先させて、その後抗ガン剤治療を考えようということにしました。

夕方、Mさんよりのお便り。いつも写真入りで巻の様子、知りたいことを伝えてくださって、ありがとうございます。庭の桜も梅も切ったなんてもったいないけど、代わってまた枝垂桜や花々が駐車場のかわりに咲きそろうでしょう。3・18反弾連の会、安田弁護士と高山文彦さんがみえるのですね。良い集いになりそうです。楽しみにのちに一言あいさつ伝えます。

Mさんありがとう！いつもお便りばかりか心遣いもいろいろと！ご家族の様子がうれしいですね。けなげな子どもたち！他友人たちありがとう！

2月17日 今日は春のように陽がさんさん。運動でベランダに出て15分くらいのところで、ちょうど姉の面会の呼び出し。よかった！姉にメディカルレポートで子宮と卵巣の手術について書いたのを昨日投函しましたが、まだ受け取る前に来たと思われるので、週を越える前の金曜日の今日伝えておけることになりました。姉も驚いていましたが、ちょうど「ガンサポート」の子宮特集や芥川賞の載っている「文藝春秋」とか差し入れてくれつつ、いっぱい話せて私も満足！落ちつきました。どう知らせるかとおもっていたので、ほっとして午後は午前中面会で入れなかった入浴。ゆったりしているうちに窓の外は曇りだして、4時頃にははげしい粉雪。昨日は積もるほど降らなかったけれど、今日はどうでしょう。送ってくれた「フォーリンアフェアーズ」を読みはじめている夜です。

2月18日 明け方、起床前にカーテンの外を見ると雪景色。さらさらと光っています。レバノンのベカー高原も2月は雪がよく降り、ペイルートからの2000メートルを越える山道が閉じて、ベカーからペイルートに出るのに、シリアから北上してレバノン北部に出て南下し、やっとペイルートにたどり着くということもありました。今年の日本は雪が多いとのこと、今日は4℃から-4℃と寒い一日です。

2月20日 8℃-2℃と寒いけどスチームが入らない朝です。今日は外科医の診察がありました。手術は3月初めに予定しているとのこと。子宮と卵巣摘出手術は婦人科医が行うが、一緒に共同する医師で、婦人科医は常勤でないため、手術の日しか会えないらしく、その間主治医とこの外科医がフォローしてくださること。明日はCT検査、腰痛もありMRI検査をお願いしました。今抗ガン剤ゼロダを服用中止にした方がよいのでは？と話し（白血球がさがる）、今日から手術優先で、抗ガン剤もとりにやめました。主治医は家族との面談を予定しておられるようです。

お便り資料感謝。久しぶりにKさんの便りはうれしい。Kさんの庭に、もうクローカス！春に向かうこの寒さは好きです。

2月21日 今日はコーラスの日でしたが、ちょうどCT検査と重なってしまい参加できません。午後2時

から2時30分、CT撮影、造影剤も入れ、腎臓の方も別に撮っていました。手術のためによく把握するためとのことです。戻って昼食。すぐまた夕食が4時半過ぎから。ちょうど差し入れてもらった子宮ガン、卵巣ガンの基礎的な知識を学習、夜は「フォーリンアフェアーズ」の論文「いまこそイランを軍事攻撃すべきだ」「空爆、外交、それとも核武装を放置するのか」や「パキスタンに対する強硬路線を」など好戦的論文が目立ちます。去年は北アフリカへの介入、2012年は中東のシーア派国家勢力を破壊して、トルコ、サウジ湾岸諸国のスンニー派勢力と協調をめざす戦略。うまくいくとは思えないけれど。

2月15日に子宮ガンの疑いと子宮卵巣の全摘手術を確認してから、体が要求するのか、猛烈に食欲が出て、やる気十分というか何というか、そんな感じです。

2月22日 午後、姉と義姉の面会。主治医から呼ばれて、手術についての説明を受け、そのあと面会してくれたことがわかりました。まだ手術日は未定で、体調をよく確認の上、行うとのこと。話をしきれないうちに30分。あっという間でした。戻って3時過ぎに、主治医の診察。家族面会のこと伝えてくれました。またこの間、外科医の先生と話したことや昨日の血液検査は異常ないことなど伝えてくれました。腰痛は子宮ガンというよりノイトロジン（白血球を増やす注射）でも腰痛になる人もいと話してくれました。今週からはもう手術の準備あれこれです。

2月23日 今日は午後から落語寄席が13:30〜14:45までありました。去年も来られた古今亭菊千代さんの他柳家フラワー、柳家わさびという若手と年配のべべ桜井というギター怪談の人計4人です。菊千代さんは東拘受刑者の話し方講師もして広く矯正などにもかかわっているようです。受刑者にはお題を出して「〇〇とかけて何ととく？」「その心は？」などで逆に学ぶそうです。若手から順にやりますが、ズラリと行儀よく座った囚徒男女を前に大変だろうな……と思いつつ、みんなが大笑いするに従ってリラックス。あとはプロのうまい進行。女区の方は20人満たないのに、その数倍の男性より大声で笑っています。楽しい一時。芸人さんたちの努力ありがたいものです。

夕方デジカメ歌人他のお便り。「雨水」の便りは「節分寒波の厳しい寒さに続き雨水寒波の雪に驚いています」と雪景色に待ちわびる春へと題した3首そえられています。「鮮やかな片足だけの虹を見た湿った蒼の湖の上」。またMさんからは子どもたちの「不登校」に先

生のあり方を問い、子どもの心をとらえ、また幼稚園のお話会では被災地に見舞いに行った思いと民謡を伝えたり、活動旺盛。それに劇の稽古準備も。今日は岐阜地裁で「泉水国賠訴訟」の一人として陳述しているのですね！ 連帯も多忙ですね。

2月24日 午前中、看護師より午後MRI検査と告げられました。昼食前外科医の呼び出し。輸血の承認書に署名捺印するように言われました。「手術はまず消化管外科が開腹し腸を点検したうえで、婦人科医が卵巣・子宮の摘出をします。手術の際に腸の癒着などで異常があったら、輸血の必要もある」とのことです。署名捺印しました。午後2時から3時までMRI。脊髄、骨盤、子宮卵巣の撮影です。時間が長いのでとうとう眠りつつ終了。夕方は数日前からの歯茎の腫れに抗生物質をもらいました。手紙や資料雑誌感謝。

2月26日 昨日は雨。今日はスチームも壊れて余計寒い日曜日。新聞では、チュニジアでアラブスンニー派政権やトルコ、米欧らが参加して「シリアの友人」会合が24日に開かれ、反体制派の「シリア国民評議会」を正式なシリア代表と承認したとのこと。ちょうどアサド政権が、新憲法案を26日に国民投票にかけるので、その正当性を阻止するスケジュールで開かれています。地域のイスラーム化を広げたスンニー派シーア派の対立を深めるやり方です。米欧はもっとも非民主的で強権のサウジアラビアなどの「民主化」には口をぬぐって、反動スンニー政権とまず共同して、イラン、シリア、ヒズブッラーなどシーア派つぶしの布陣。イラクもシーア派主導政権ですから、さらに中東全域は不安定になる気配。ハマスも「シリア反体制派支持」との記事。反動的王政や支配階級への闘いは宗派対立にすりかえていく中で、中東の友人たちの考えていることが浮かびます。ハマスも統合して、PLOの機構を改革し、自治区のみならず世界に散った難民を代表する全パレスチナの決議機関を今こそつくり、変化の時代の民衆主権を模索しているでしょう。その方向には反植民地闘争の旧くて新しい闘いをこめて。

2月27日 今日スチーム故障。午後になおってホッ。今日は「トライボール」という器具を渡されました。「予定では3月5日手術なので、その日まで呼吸器の機能を高めるように」と。吸引すると小さいピンポン玉3つが浮きます。浮いた状態で10秒維持できるようにとのこと。3秒がやっとなら。これから毎日訓練です。3月5日手術。発信棒なくて知らせられないで

す！今日は休日明けでいっぱいのお便り、やっぱり手紙、ハガキが元気の素。

2月28日 今日は41年前、日本を発った日。父や遠山さん、バーシム奥平らを思いつつ。今日6℃-3℃、寒い一日です。

2月29日 起床してカーテンの外は真っ白な雪景色、一日中降りやまず。最高温度も4℃の寒さです。午後医務部長の診察、主治医不在で代わりにこの間の検査結果と3月5日に手術を行うことを伝えてくれました。2月28日の採血の結果は、白血球も3392で、好中球も45%、血小板も15万なので、手術は問題ないとのこと。腫瘍マーカーは、しかし上昇し、15.6CEAと、去年9月6.9まで下がっていたものが、毎月上がっています。子宮・卵巣摘出でCEAマーカーも下がるといいのですが。またMRIとCTも問題はとくになかったとのこと。腰痛はMRIの映像から椎間板ヘルニアがあり、その痛みと考えられるとのこと。子宮の方ではないらしい。呼吸機能も正常、末梢神経障害は一気に吐く力が弱いが問題ない。そんなわけで、3月5日に手術は可能と出て正式に決まりました。3月2日(金曜日)に、看護師から手術前のオリエンテーションがあり、そこで詳しくいくつかから絶食かなどわかるということです。手術後は結果によってしか判断できないが、消化管でないので軽いようです。大阪医療刑では所長判断で病室面会可能だったことなど話したけれど、ここは不可とのこと。病人の特権で、メイと帰国して初めて手を握り合えたので、「大阪はよかった！」と、その一点で思っているのですが……。今日は今も雪が降りつづいています。

3月1日 昨夜は樹氷も粉雪の中幻想的な美しさでした。その後、雨が降ったのか、朝起床時には木々の雪は落ち、一面の雪原も水っぼい。それでも太陽の陽の下でも八王子の寒さではとけません。美しい陽に輝いています。

午後、メイの面会。今日はメイのバースディなので来るかな……と思っていたところです。元旦に取材で中東に行ってから2月26日に戻ったらしく、ちょうど27日のTV番組「ニュースの深層」に出ているという記事を新聞で見つけて、「あ、無事戻ったな」と思っていたところでした。「ひさしぶり！ ハッピーニューイヤー！」と「ハッピーバースディ！」と、まずあいさつ。いっぱい中東の情勢も聞きたいし、こちらのことも伝えたいし、と早口におたがいに短い会話であ

れこれ。ちょうどダマスカスでは、そこに行く直前の場所で「自爆事件」があり、その遺体の写真なども示して説明してくれました。「宗派対立をあおる勢力はあるけど、中産階級のスンニー派はアサド政権を支持し、アルカイダ系のスンニー派の拡大を警戒している」など話してくれました。それから、3月5日の私の手術を伝えるとびっくり。まだ知らせる発信条件なく、今日やっとなら発信したことを伝え、姉にもそれを伝えてほしいこと、その他頼みました。メイもバタバタと多忙で、不在中の諸仕事もこれからだとのこと。あつという間に30分。短い時間ですが、会えてよかった。

房に戻って、「イブン・ジュバイルの旅行記」(1145生-1217没)やぶ厚い「パレスチナ コスチューム」という英文の本。ガッサンというペンネームの方、ありがとう。でもアドレスは「千代田区千代田一」と皇居らしい住所で、担当の人からこんなアドレスでは、今後は不可とされています。パレスチナの民族衣装の歴史や写真などの美しい本ですけれど。

3月2日 今日は昨日運動が中止、雪の水曜日でも中止だったため、なんとかベランダの運動に参加したい、曇り空ですけど。お腹を切ったら、また歩くのに少し日数がかかるでしょうから、今日は軽く走ってみたい。とその前に看護師から手術に向けたオリエンテーションで10時にはじまりました。

「手術は3月5日午後、今日の14時から土曜、日曜と下剤を250mgを毎日1本ずつ飲むこと。日曜3月4日には加えて20時に下剤2錠を飲む。それまでは、食事・飲み物OK。3月4日以降は一切の飲食は禁止。5日朝、転房(酸素マスクのある女区棟の房)。その後、点滴、手術の準備の衣服、軽い麻酔の上手術室へ。6日にDRの診察あるまで酸素マスクはつけておくこと。手術の結果によるが順調なら7日から水分開始、昼におかゆをとり、8日から食べられるようになる。ただし、これは手術を終えてみないとわからないので、手術後のメドとして、そういう予定である」以上のようなことが伝えられました。

10時10分、これからベランダ体操と思ったら、「雨が降りだしたので、運動は中止」の声！ あー、がっかり。走って見たかったのに。しばらくまた動けなくなりそうですから。

夕方になって、姉、Mさん、Tさん、M他友人からお便りがぜん元気な週末です。Tさんは体調をものともせず2月24日には早朝から福井県庁へ、県議会初日知事の施政方針演説傍聴へ。山本太郎も来ていたし、最前列にはいかにも暴力団風の男たちが占拠して



いて、反原発のきびしい様子も伝えてくれました。京都でも「バイバイ原発」など、若い女性のイニシアチブの登場や共産党の人も共同したり、バラエティある広がりようです。川村弁護士のアドレスが変わったこと、弥生3月に日本も事務所も心機一転するので、「弥生事務所」と新名称でスタートとのお知らせ感謝。

3月3日 アサド政権は2月26日に国民投票で新憲法を89%で賛成を得て承認されたとしており(投票率57%)、正当性を得て政権主導の改革を進めようとしています。反政府勢力の質の悪さ(無差別の残虐など)に、住民を「政権の方がまし」とさせている側面もありそうです。BBCのポール・ウッズ記者がホームから2月に伝えた記事も「自由シリア軍」というのが、世俗主義のバース党に対する「宗教戦争を示している」ことや「無差別虐殺」など行っていることを伝えています。外部ことに米欧・サウジ・トルコ・カタールなど財政武器供給による介入は、シリアのみならず中東全体を戦場にさせ、住民を犠牲にしています。住民たちも選択を強いられたレバノン内戦の15年戦争を思い出さないわけにはいきません。

今日は週末、下剤、トライボールの呼吸肺機能トレーニング、書類資料整理の手術準備です。

3月4日 曇りで寒い冬戻りの一日。食欲は旺盛。食べ過ぎの気分。朝昼はほぼ完食となったが夕食は半分ほど。転房に備えて荷物を少しでもコンパクトにと資料の選択。安静時間はベッドにいななければならない、「イブン・ジュバイルの旅行記」を読んでいます。12世紀から13世紀の北アフリカ中東の様子の現代と同じ気質があつて興味深いイスラーム社会です。安静時間解除になると「トライボール」。今日の夕食前までしかもうトレーニングできないので、フーフーと吸引しすぎて疲れてしまった……。飲めなくなる水分、お茶をたっぷり飲んで20時前に薬と最後の下剤を呑み、明日の準備は終了。明日は引越してから始まる一日。気ぜわしくなりそうです。

3月5日 手術の日。9時前転房。これまでの部屋と同じだが、違うのはOXYGENとVACUUMと記した取り口がベッドの壁のところにあること。そこに「呼出」ボタンもあるのでナースコールがあると思ったら通電していないとのこと。身動きできない手術後はひんぱんに看護師がチェックするし、どうしても必要なら、はたき(掃除用)の柄で昼はたたか、夜ははたきを立てておくようにとのことで、ユーモラスだが不安もあります。ことに夜は7:30以降は朝まで錠は通常女区ではなく本部管理で、異常時は即応とはいかない刑務所です。でも手術した日は仮施設で、ひんぱんに対応してくれるらしい。空調も備えつけられているが、ほこりが一杯そう。使用していないものだった。(あとで知ったが、クーラー機能のみ、冬は他の房と同じ朝夕1時間のスチームのみ) あとはベッドを低くしてもらい、看護師が手動的に起こせるベッドが今までと違っています。まず床掃き床拭き。たまたま掃除前で汚く髪の毛や汚れが多かった。その後腸の洗浄。

10時半外科医がCVポートに点滴の針を入れてくれたので「小腸、大阪でも再発の可能性を指摘されていたので、チェックよろしくお願ひします。悪いところは切ってください」とまたお伝えしました。「癒着があれば全部みれないけど、みれる範囲に異常があれば摘出しますよ」とのこと。Dr.は真面目誠実そうで安心。12:30前に筋肉麻酔注射。手術着着用の上、手術室へ。手術台に乗り、12:35-13:00頃まで背骨に痛み止めの注射、頭に心電図、腕に血圧計などの設置を準備し、「では、麻酔をかけますよ」というので時計を見ると、13:00より5分前、その後意識なし。「重信さん！」とDr.と看護師たちの呼びかけで目覚め。違和感、不快感、痛みもなく、昼寝から覚めたような気分。「手術は終わりましたよ。うまくいきました」との声にうとうとしつつ、「痛みもなく大丈夫です。ありがとうございます」と言って時間を聞くと16時半過ぎ。予定より長くかかったようです。身体には管3本(尿、CVポート、背中)と酸素マスク。まだ口も頭もまわらず、再び寝ました。

3月6日 まだうとうと感。午前中外科医がみえたので、「ありがとうございます快調です。時間がかかったのですね」と言うと、「腸に癒着もほとんどなく、小腸もよくチェックできめずらしい異常が見つかり切除しました。そのため時間がかかりました。あなたが言っていたように小腸に黒ずんだ部分があり、ひっぱりあげたら、骨盤の方に落ち込んでいて、(間?)膜に腫瘍があったのです。子宮はリンパ節もとつたし卵巣もと

りました。手術は成功です。だいたい悪いところはとれたと思います。くわしくは病理検査が出てから」と話してくださいました。カンマク?よくわからなかった部分もあったけど、こちらはまだぼーとしており、とにかく成功にホッ! 酸素マスクをはずし(許可)た。でもその後、血中酸素が低いらしく、夜もう一度マスクをつけたままに変更。レントゲン、胸腹とりました。まだ意識はフラフラ。

3月7日 主治医午前中に来房。Dr.の親類に不幸があつて手術には立ち会えなかったが、事情はフォローしていると伝えてくださいました。今日は血圧が上が89とか100もいかないが、38℃と熱が高い。でも今日から自力でトイレにも行ってよいとのことで、ソロソロと動きだしました。この間3月5日、6日、7日と何人もの方々から励ましの便り。Tさん切手も、関西の3月のさまざまな脱原発などのピラまでありがとう。いろんな歌やことば、絵写真活動のことなど、みんなの励ましが私に早くなおさなくちゃ!と力をくれます。感謝。

3月8日 今日は世界では「女性の日」。パレスチナや欧州の友人たちもきつと思ひ出しているでしょう。晴れて良いことがありそうな気配。友人たちからの本や資料手紙など多数。4時前、外科医が背中を抜いたので少し痛みだしました。もう痛み止めの薬が切れたのです。でもあとガスが出れば少しずつ傷の痛みもやわらぐでしょう。食事や水分はまだまだです。来週まではムリでしょう。夜乾燥やほこりか、ノドがいやらっぽくてせきに苦しみました。笑っても痛い切口はセキは大変しんどい。「ノドのうがいをして」と看護師さんのアドバイスを、「水分禁止でもいいの?」と聞いたら、呑まないようにと言われて、少し口に含んでノドをうがいで納めました。でもやっぱり資料も届いて今日は良い一日。担当さんからも「ペランダに新しい花が届きましたよ!早く見に行きなさい!」と言われて「ワー!何の花?」と聞いたら、「見るおたのしみ!」とのこと。水仙?と言ったらちがうと言うので、三色スミレかな。今日はまた房内を徹底してきれいに房清掃もしてくれました。みんなに感謝の女性の日です。

3月9日(金曜日) 午後自分で歩いて点滴台を押して診察室へ。外科医は傷口診察のあとで、手術の時のことを写真と共に説明してくださいました。私も少し字も書けるようになり、3月6日の説明理解できてない

ところ聞きかかったのです。カラー写真に癒着のないきれいな小腸がお腹につまっています。思わずウイナーみたい!と言葉がこぼれてしまった。Dr.も「腸詰めと言いますからね」と笑いつつ、切除した小腸(黒ずんでいるもの)や摘出した3・5センチの肉塊と真っ二つに切ったもの、子宮体ガン状態などのカラー写真を次々示して説明してくれてやっとうわかりました。「大変めずらしい腫瘍で、子宮・卵巣摘出の前段のチェックで偶然見つけることができてラッキーだった。黒ずんでいた腸をひっぱりあげたら、骨盤の方に落ちていた後ろの腸間?膜に、この3・5センチの腫瘍がくっついてたのです。切りとつた小腸の内側粘膜はきれいで、たとえ小腸カメラが届いたとしても見つかることはできなかった」とのこと。つまり管の粘膜(内側)でなく、外側に肉のかたまり腫瘍が密かに育っていたようです。CTで婦人科医が卵巣腫瘍とみていたものがこれだったようです。大阪で摘出した小腸ガンは表面がぬれたタチの悪い「粘膜酸性化ガン」だったのですが、この小腸の外側に成長したガンは、二つに切った写真ではピンシャピンシャぬれてなくなっているものがつまっているのが性格もちがうようです。小腸2ヶ所切ったのかと6日の説明で思ったのですが、10センチ小腸を切り、くっついて、肉腫のようなものを摘出したのがやっとう理解できました。原発性、転移性、再発性など、これから病理検査でチェックしていくとのことです。大変めずらしいというので、通常こういう特殊なガンはどう呼ばれるのか?と聞くと、「腸膜由来の腫瘍」「腸間膜腫瘍」とか間膜系、つまり粘膜からではなく起こる腫瘍ということらしいです。他に子宮体ガンはリンパ節は腫れていなかったが、体ガンの広がり大きいので、リンパ節も切除したと話してくださいました。これも病理検査でステージが判明し、のちに治療を行うとのことです。腸管の外側に密かに育っていたガン3・5センチには何だか写真を見つつ、愛着というか、切ない努力をなげしてたの?という気分になりました。今回は偶然の条件で命拾いをしたようです。Dr.にお礼を言い回復も順調と伝えました。水分やおかゆなどは13日からとのことです。16時半、初めてのガスが出ました。これで小腸は開通したことが証明されました。

3月10日 寒い。新宿に雪が舞ったらしい。今日はやっとう5日以降のメモをこの日誌に書きました。字もまだ腹部の痛みもあつて、読みにくいのには書きなおす力がない。悪しからず。夕方スチーム入らない。どうも他は入っていたらしい。また壊れたのか? 読む

のも目まいせず読めるようになりました。

3月11日 今日は3・11一周年。世界で日本でさまざまな集会やデモがあるのでしょ。曇り空は午後には春の陽のように南側運動場にキラキラ。ゆっくりと外の景色にも目を向けられるようになりました。でも今日も朝も午後スチームなしの寒い一日です。月曜に故障なおしてくれたいのですが。明日は姉、義姉、メイ3人のDr.との家族面談と面会の日。まだ元気な姿で会えないけれどうれしい。病理検査結果後の家族面談が26日とのことで、早めに一度来てくれるとのこと。みんなに助けられてばかり。世界各地の脱原発3・11変革の再生の日に、自らも位置づけつつの命拾いの再スタートです。感謝と連帯を念じつつ。

3月12日 朝から春のような陽がグラウンドに注いでいます。でも結局スチームが入らず、元居た自分の居房に引っ越しすることになりました。10時過ぎ引っ越し。朝は採血もしました。10時40分診察室へ。抜糸が行われました。その際、聞き忘れていたことの再確認で、実際の卵巣の方はどうだったのか?をたずねました。前に見た写真を示しつつ、卵巣は正常であったということがわかりました。(もちろん子宮体ガンのため摘出しています。)ということは、2006年07年に、「卵巣腫瘍」と東京拘置所外来婦人科医診断した時から、それが今回の腫瘍だった初診断とすると、ずいぶん長い間にゆっくり成長したことになります。まだナゾの多いこの3・5センチ腫瘍由来です。午後1:30からレントゲンとCT撮影。

2:30過ぎに姉二人とメイの面会。ひさしぶりの気分ですが、メイには3月1日に会っています。病理検査が出ていないため、Dr.ではなく制服組のいつもの医師面談に同席の方が手術の成功を伝えてくれたのみだったようです。それでも私も9日にやっとう理解できた腸間膜腫瘍のことなど話し、また命拾いねえ...と、みんなで話がワイワイとなりました。私も話すほどに元気が湧いてきて、メイのこの間の仕事や多忙の様子をいつもの調子で話しつつ、笑うと痛いお腹をかかえて楽しい30分がすぐにおしまい。でも楽しいうれしい再会でした。みんなへの感謝を託して別れました。

房に車椅子で戻ってすぐM子さんのお便りや資料届きました。「連赤殉難者の会」の追悼の様子や赤軍派の面々の昔の面影を残した写真も見ました。他資料お便り感謝。さあ私もやる気一杯!

3・18 反弹圧の集いに集まれたみなさんに

反弹圧の集いに集まれたみなさんに、獄にある者として、感謝と連帯をお伝えします。

昨年、丸岡さんのために心のこもった別れの会を持ってくださったばかりか、ペイルートへの納骨とパーシム奥平らリッダ闘争戦士らへの墓参もして下さったこと、ありがたく感謝ばかりです。また、泉水さんへの交通権など処遇悪化に対して去年より国賠訴訟を開始し、励まし支えてくださっておられること、「泉水国賠通信」などを読み、わが身を振り返りつつ憤ったり励まされたりしております。

昨年はまた、アラブからヨーロッパ・アメリカまで不条理、不公正に怒った抑圧されてきた世界各地の人々が声を上げ、多様な変革の道を歩みだした年でした。3・11後の日本も「東北大震災」にいたたまれず、多くのボランティアが駆けつけ、助け合う市民・住民の連帯が日本を席卷しました。そして「フクシマの大人災」の現実を怒り、日本のこれまでの生き方、暮らしを問う契機となり、脱原発は国民・市民・住民の意志として切実に求められています。「大人災」の原因をなした東電上層は逮捕も起訴もされず、官僚、御用学者、政治家たちは、今に至るも責任を取ろうとしていません。そればかりか冷温停止原発事故「収束宣言」を発して、再稼働、原発輸出の道を進み、加えて、官僚や政治家の特権、利権には手を触れず、国民・住民に負担を強いる消費税増税に突き進んでいます。2012年は、国民・住民の切実な希いとかけ離れたこうしたやり方が破綻まで強行されそうです。すでにこれまでもそうであったように、失敗や過ちを抜本的に改めず、国民・住民に犠牲を押し付け、管理強化に転化する流れは一層強まっています。

司法改革の停滞、刑事施設の処遇悪化、死刑・重刑求刑増加も、こうした脈絡の中で捉えることができると思います。すでに死刑執行に署名しなかった平岡法相は、「内閣改造」の折に検事出身の死刑容認小川法相に「さりげなく」変更されています。刑事施設では人員不足が続き、規律強化、労働強化、管理強化となって、結局、現場刑務官と被収容者にしわ寄せを強めています。今年1月発行された八王子医療刑務所視察委員会の「子安町通信」によると、90%以上の回収率のアンケート調査で「職員の不足、とりわけ夜間の人員不足、休暇も取れないといった嘆きともいえる意見が多く寄せられている」と、職員の回答も報告されています。処遇に関しても「新監獄法」から年ごとに著しく逆行していることは「泉水国賠訴訟」に示されている通りです。ここ八王子でも、去年4月から処遇に関わる人事交代を経て、これまで以上に厳しくなりました。

今年1月30日に新しく交付された「所内生活の心得」に、面会について以下のように記されています。

「面会できる相手方は、原則として次の通りです。(ア) 親族 (イ) 婚姻関係の調整、訴訟の遂行、事業の維持その他、本人の身分上法律上または業務上の重大な利害に関わる用務の処理のため必要な者 (ウ) 更正保護に関係のある者、釈放後雇用してもらおう予定の者、その他改善更正に資すると認められる者」とのこと、(ウ) の適用が極めて狭められたものと思われます。

それまで会えた大学時代の旧友も面会不許可とされ、他の友人は当時同施設に居た丸岡さんのことを書いたため「交通禁止」となりました。手紙の「抹消」「全文差し止め釈放時交付」が多くなりました。丸岡さんの妹さんが去年11月に面会に見えましたが、不許可とされてしまいました。私も妹さんもどれだけ丸岡さんについて知らせ合いたかったでしょう。八王子に丸岡さんが移監されてから仙台に居た頃知りえたことも、知ることができずにいました。結局丸岡さんの最後の様子は高山文彦さんの「G2」の文「丸岡修戦士からの遺言状」によってはじめて知ることになりました。死に追いやった検察の仕打ちのひどさ、医療刑務所の不決断と不誠実には言葉もありません。私の場合もきびしいでしょう。「重信は生きて獄から出すな！と上から言われている」と、私ばかりか参考人として取り調べられた友人にま

で若手検事が平気でしゃべる検察権力の「正義の独占」の傲慢さは「フロッピー前田事件」を経ても一向に変わっていません。むしろ丸岡さんの「執行停止」を阻止したように、「異端者」への弾圧は強まっているのだと思わざるを得ません。

医療体制について言えば、八王子医療刑務所ばかりか全国的に医療刑務所は「予定手術」のシステムで「緊急手術」のシステムとなっていないとのことです。そのため、抗癌剤治療でも、副作用の稀な急変に対応できないため、治療も限られます。今では、「分子標的治療」が治療の最新保険適用治療ですが、「消化管穿孔」などの副作用があった場合を考えると使えないそうです。担当医スタッフは丁寧に対応してくださり、年2回のCT検査のおかげで2月に新たに子宮癌の疑いも見つかり、3月初めには、再び子宮・卵巣の摘出手術を行います。(これまでに、2009年2月に小腸と大腸(横行結腸1箇所とS状結腸1箇所)の手術をしています。)しかし一般の病院のように即応したりできません。婦人科医は常勤でないために、診断には少し時間がかかりました。治療環境では防寒が十分ではなく、私も何十年ぶりに「病院でもはやけになる」という始末でした。でも、今冬は去年よりもスチームが入り(朝と夕食前約1時間ずつ。去年は稀に朝のみ)カイロも私費購入ながら使えるようになり、しもやけも小さい1箇所だけで、ひどくなりませんでした。しかし「医療施設」としては防寒ばかりかシステムの変更、予算スタッフの拡充など、改善が必要です。それでもこれまでのたくさんの被収容者の犠牲や、心ある人々の訴えや努力の結果、今の私の治療環境があるのだと実感しています。司法の改革、処遇の改善、死刑制度の廃止など求める人々の持続的な声や行動がなければ、もっとひどいものだったでしょう。

今後も種々の改善を求め、処遇の現実を広く社会に伝える中で、悪化を押しとどめる力となっていくはずですが。こうした集いもまた獄中に在る私たちに励ましと連帯感を育て前向きな力を沸き立たせます。2012年民主党最悪の政権に抗し、脱原発の主権者の意志を確固として実現する闘いと共に、反弹圧、司法等改革の闘いが前進することを願ってやみません。世界の人々と共に歩む変革の握手を！

2月20日

重信 房子

2・25 連合赤軍殉教者追悼の会へ

2月25日の連合赤軍殉教者追悼の会を知らせてくださったことありがとうございます。また、先日は「証言連合赤軍」NO. 8もお送り頂いて、永田さんのお別れの会の様子を知ることができました。25日追悼の会に参加して当時のことを語り合いたいところですが、叶いません。みなさんの持続的な活動に敬意を表し、連帯の気持ちを伝えます。

地中海岸のペイルートから標高2000メートル近い山脈を越えていくベカー高原の2月は雪景色がまた深く美しいところです。雪降るたびに連赤の仲間たちのこと、ことに遠山さんと山田さんを思いました。

今、八王子医療刑務所ですが、大寒前日に雪が降り、立春も残雪が溶けず、今日2月7日の雨で、ほとんどの雪が溶けました。

“冬の修羅乱舞する雪七重八重夢の儚さ君死に給う”

“雪山に倒れし旧友の声聞こゆあなたがほしい花いちもんめ”

遠山さんを想い、歌の零れる冬です。

3・11を経た今年、新しい時代「連合赤軍」「東ア」など何十年も獄にある吉野さんら、当時闘った仲間を釈放させる新年となりますように。

重信 房子

アラブ物語(18)

シンガポール・クウェート作戦の時代—アジア連帯(4)

重信 房子

9. 部隊の帰還と矛盾

そのにぎやかな頃に作戦部隊の戦士たちもバグダッドに帰還した。本来はドバイ闘争のCたちの部隊の帰還が先であったが、それは未だ解決していなかった。リビアとしても「裁判にかけろ」などと大見得を切ったので、少し冷却期間を起きたいと思っていたらしい。私が前年リビアに行った折に、74年5月リッダ闘争の記念日前には再訪を約束していたので、その時に解決できれば良いとこちらも考えていた。

シンガポール・クウェート作戦の戦士たち、E、F、日本人G、Hが戦場に戻ってきた。居合わせた者たちは労をねぎらい、歓迎したという。Eは部隊のリーダーであり、EとFはパレスチナ人で、1948年のパレスチナ占領によって追放され、レバノンに避難してきた家族の若者たちであった。GとHは日本人である。Gが日本人のキャップで、その下にHが居た。軍事的部署の代表をしていたニザール不在のところ、時折日本人の通訳とか、アウトサイドワークからの要請で、補佐するように私も口を出したりもした。しかし、本当のところ軍事は私の領域外だと躊躇もあり、今から思うと、逆に中途半端であった。

当時、私は国際関係局や情宣局から現在の作戦によってPFLPは何を政治主張したいのかを聞き取って、政治声明を作っていくのは自分の役割ととらえていた。作戦のPFLP政治声明を日本の政治課題と合わせて「アラブ赤軍声明」として日本に送るといった活動を他の非軍事的部署の者としてきた。(そのため、「アラブ赤軍声明」は作戦日を声明の日としているが、内容を読めば分かる通り、どれも作戦が終わった後にPFLPの作戦の声明を踏まえて書かれているものである。)当時、日本向け情宣を主に担当していたのは私であった。PFLPの声明を踏まえて、私たちの当時の志向に、私が自分の問題意識を重ねて政治的立場として「アラブ赤軍」を表明していた。「私たち」と言っても、当時まだ「組織」ではない。日本人ボランティアはそれぞればらばらで、一つのものではなかったが、少なくともアラブにきた根拠であったパレスチナ連帯の国際主義や、在欧のアジアの革命運動の統一を求めた戦略的統一戦線運動という、共通の政治的立場と共

に闘おう、という強い仲間意識があった。

シンガポール・クウェート連続作戦の帰還後、GはHと一言も言葉を交わしていない。作戦中の問題が原因らしいというのがHの話から分かった。

作戦は、シンガポールの海岸から釣り船を雇って海上に出る計画だった。そして、海上に出たところで船頭を制圧し、石油基地のブクム島へとコースを変えて、島に上陸することになっていたという。そして、石油タンクにバズーカ砲と同じ威力の「エンプティージャー」が工学的に計算された手製武器を仕掛けて爆破させることを指示されていた。それでタンクを破壊し、火災を起こして、基地全体を破壊するという計画だった。

小船を借りて沖に出たところで、船頭を制圧したところまではスムーズにいった。しかし、船頭を制圧する際に、Hが自分の指紋がついたとエンジンスタートを海に捨ててしまったのだった。ドクロマークなどの「危険」の絵の書かれたブクム島のゾーンへと船を向けたが、島に近づくにつれて船が進まなくなってしまったという。エンジンスタートを探したが、無い。そのため船は立ち往生してしまったというのだ。Eらパレスチナ人が遠くの他の釣り船を身振り手振りのゼスチャーで呼び、引っ張ってもらうように機転を利かせて対応し、何とかその危険を脱したという。この時のHの個人プレーに、皆が頭に来たらしい。

その他にも問題があつて、指揮官Eは指揮に従えとHに銃を向けて怒ったらしい。作戦中の報告書で、EはHを査問にかけよう書くらしいと言う人も居る。そんなことがあつて、GはHに仲間意識が持てなかったのかもしれない。日本人同士といっても、PFLPの指揮下の個人であり、未だ組織ではない。私は問題を解決していけるように、ますます組織を作らねば……と思った。

また、もうひとつ問題が起こった。クウェート作戦のガッサン・カナファール二隊のキャップMがシリアではなくクウェートを作戦舞台としたことである。上部からの指示は、シリアのダマスカスでの作戦であった。クウェートは友好国であり、PLOのみならず、PF

LPとも良い関係にあつた。クウェート政府の許可なく行動したことで、PFLPとして問題になった。このことで、Mもまた査問にかけられることになった。Eは、「Mを査問にかけろ必要ない、シンガポール作戦を救ったのはMたちの闘いであり、評価すべきだ。ダマスカスで作戦やれという考え方こそ観念的だ」とMを援護した。意見を聞かれて私は、「みな最善を尽くした。誰も査問にかけろべきではない」と主張した。

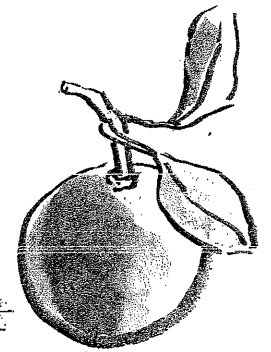
このことがきっかけで、クウェート作戦ガッサン・カナファール二隊の隊長Mは、PFLPを辞めることに結果した。Mはパレスチナ人ではない。彼は民族解放闘争を、パレスチナ解放の闘いで学び、また、自分が再生するのは、自民族解放闘争においてだと深く考え直した。Mは決断した。そして、彼は翌年自らの解放戦線組織を創設していくことになった。

とにかく、作戦後の矛盾はもともと陽気なEと話し合つて、問題を大きくしないことになった。

ハバシュ会議を経て、PFLPから独立した自前の組織を作ろうとして始まった一方で、こうした軍事的部署の闘いと矛盾もあつた。こうした問題は私を組織作りへとますます掻き立てた。個々の対立ではなく、決定・システムによって実践し得る組織こそ必要だと思つた。

今問われていることは、とにかく、自前の組織を作り、ニザールを中心とした日本人独自の軍事的決定機構を作り上げることだ。ニザール丸岡には人格、経験、能力としても、それを担えると思う。そして、軍を支えるような形で、各地の活動現場のグループが統一的な組織として実体を形成していくことだと思つた。当時は武装闘争による国際統一戦線をめざし、軍事的機構を軸とした組織のイメージしか私は持っていなかった。

シンガポール・クウェート作戦における作戦後のこうした矛盾や対立の話を通して、わたしは、ますます組織の独立した体制作りを急がねばならないと実感した。その組織に不可欠なものとして、何をどう作り上げていくのか、みんなで組織のイメージを語り合うことをきちんとしたわけではなかった。また、中央集権的な組織よりも、それぞれが独立して現場の日本人が決定し実践していくための組織を考えていた。それを「ステーションとしての党」と仮称しながら、組織化を始めたところだった。しかし、政治的、物質的にそれをどう準備していくのか?政治的にもみんなで共



通の考えを討議して作り出していくというよりも、私は当時のPFLPや在欧の仲間たちの先行している経験に真似ながら、進めていけばよいと考えていた。今から考えるとプラグマチックに、金や人、政治の結合を考えていたと思う。

10. 74年10月戦争後のイラクの動向

73年10月の第4次中東戦争を経て、「停戦から和平交渉へ」という流れに、もっとも明確に反対していた政権党は、イラクバース党だった。イラクは、アルジェリアと共に、社会主義民族自立経済を推し進める当時のモデルのひとつであった。

当時のイラク政権は、バース党のイラク革命評議会の12人の指導部(アハメッド・ハッサン・アル・バクル大統領が評議会議長を兼ねていた。副議長が当時30代のサダム・フセイン・タクリティ)である。

バクル政権は、1968年のクーデターによって、政権を掌握してきた。イラクという国は、英国の植民地支配によって引かれた国境線の結果、国境領土問題など、歴史的にいくつもの紛争を抱えていた。クウェート、アラブ諸国との領土紛争、これらは90年代にもサダム・フセインのクウェート侵攻となったが、この頃、73年3月にも、同様の対立となっていた。イラクがクウェートに侵攻したためである。その73年の時には、後にクウェートからイラク軍を撤収している。

他にも、イラクには隣国との領土問題がある。イランとは湾岸の島の領有権問題や、ユーフラテスとチグリス川の合流したシャトル・アラブ川をめぐる国境線問題も抱えていた。(英国支配時、ユーフラテスのイラン川岸まで、イラク領土としていたため、イラン側とたびたび衝突。75年3月に、川の中間地点を国境とすることにイランと合意するまで続いた。)

さらに、国内にはクルド問題が大きく内政を圧迫し

ており、政治的にはシリアバース党との対立という様々の問題を抱えていた。73年6月のクーデター未遂も、強権的な国内引き締めを作り出していた。

第4次中東戦争後のイラクは、74年から75年、イランのシャー王制と取引し、クルドの徹底弾圧を行いながら、内政を立て直していく年となる。クルド問題では、70年に「4年以内に、イラク共和国の枠内の自治権をクルド族に与える」と、バクル大統領が約束して、矛盾を回避してきた。

74年というのは、イラク政府にとってクルド問題の解決を約束していた年であった。加えて、第4次中東戦争の結果、米ソの調停で進もうとしている「中東和平」には、シリアとの対抗上も反対を表明してきた。イラクにとっては、和平交渉を推進するソ連依存から自立経済をさらに進める必要もあった。そのため、中東戦争の石油戦略を突きつけられて、アラブ寄りに梃を切った日本との関係改善や西独、英国との外交再開など、新しい戦略方向を模索していた。日本は73年末に三木副総理、74年1月に中曽根通産相がイラクを訪問した。74年2月、西ドイツと外交再開。4月に英国とも大使級外交関係を結んだ。日本は国策として、三菱を中心にイラクへ、三井をイランに進出させてきた。73年には三菱のイラクでの化学肥料プラントは好評であった。中曽根通産相訪問後は、石油確保で合意した上にマイクロウエーブ同軸ケーブル、乾電池や合成繊維のプラントなど技術協力を拡大させた。イラクの財源である石油利権を国家掌握するために、クルド人を犠牲にして、建国を進めていく年として、74年があった。

この74年は、また、私たちがバグダッドに集まり、あれこれに多忙を重ねていた時期に重なっている。

クルド民族はトルコの虐殺から逃れて、トルコ、イラン、イラク、シリア国境地帯に、当時2000万人近い住民が住んでいた。イランとイラクの国境問題では、いつもイランシャー王政はクルドを支援しながら、イラクに敵対して来た。74年に入ると、イラクはイランを国境問題の解決のテーブルにつけながら、クルド支援をイランが行わないように、まず、水面下で保証を取り付けた。

その上で、74年3月7日から、クルドへの一斉攻撃を開始した。そして、3月11日には、バクル大統領が「クルド自治案」を発表した。この案は、70年にバクル大統領自身がクルド人に希望を与えた「4年後の自治権の解決」とは、まったく違ったものだった。

バース党の一方向的な要求であり、15日以内の受諾を迫っていた。この案では、クルド地域の油田キルクーク地区は自治からはずされておられ、クルド人の到底合意できるものではなかった。クルド族は一斉蜂起した。しかし、長い間解放闘争のリーダーだった老闘士ムスタファ・バラザーニは敗れて、イラン側に入り、そこからアメリカに逃れることになった。

また、74年3月には、バース党のクルド族を中心にして、タラバーニ派によって「クルド革命党」を作り、4月はじめにはバース党自治案に合意させた。そして、これまでのバラザーニらの「クルド民主党」のリーダー11人を銃殺刑にした。こうした、軍事制圧と策謀によって、クルドのこれまでの15年にわたるバラザーニの指導下の解放闘争は、一時壊滅していくことになった。

このクルド問題に見られるように、イラクの強権的な政治の時代がはじまっていった。

73年6月末のイラククーデター未遂事件は、イラクバース党内でもしばしば尾を引いていた。PFLPの政策を支持していたバース党地域指導部の治安長官や大臣も、クーデター立案者側で殺されていた。彼らは、ANMや他の植民地闘争の時代からPFLPとも共同していて、バース党内でも近い友人関係にあったらしい。(そのためにリッダ闘争後のイラク訪問団にANMの人や「復讐の若者たち」のリーダーが友人として加わっていた。)

民族指導部に居たヨルダン人の大臣Aはクーデターには与していなかった。PFLPはクーデターの情報を知っていたのではないかといった厳しい疑いを解くのに、Aが一役買ってくれたと、後にPFLPの人たちから聞いていた。

以降は、私たちやPFLP関連の施設は、大臣Aの指示で統括していた。ハバシュ議長もクーデター未遂後は、関係修復にすぐ動き、政治的には回復していた。

その頃、73年10月戦争が勃発した。そして戦争の間中、イラク政府は戦争対立下にあったシリアに対して反イスラエルで共同し、また、パレスチナを支援した。イラク空港への民間機の発着を禁止した上で、軍事空港とした。そして、ソ連からシリアへの武器弾薬がバグダッド空港を経て、ひっきりなしに戦場へと届けられた。反イスラエル戦争では、このように対立していたイラクもシリアも結束して闘った。イラク、リビア、パレスチナ、アルジェリア、南イエメン諸国は、イスラエルと共同する帝国主義諸国に石油戦略に

よって、全アラブで対抗するよう訴えた。

サウジアラビアのフェイサル王、シリアのアサド大統領、エジプトのサダト大統領の3者の合意で、「石油を戦略」として闘うことを決めた。当初、勝利的に戦端を開いたエジプトとシリア側は、イスラエルと一体になったアメリカによるAWACSの妨害で、制空権を奪われ、後退を余儀なくされたためでもあった。

73年10月17日、アラブ石油輸出機構の10カ国が、石油相会議を開き、石油戦略の発動を決める特別決議を行った。その中で、「国際社会はイスラエルに対して、アラブ・パレスチナ占領地域からの撤退を求めべきだ」と訴えた。それが実行されるまで、石油生産の5%を毎月削減すると発表した。

日本は直ちに協議し、アメリカの意向に初めて反して「アラブ寄り」の政策に立った。「イスラエルの全占領地からの撤退を求めると、二階堂官房長官談話を発表した。

10月22日に、国連は米ソ共同案の国連決議338を採択し停戦に持ち込んだ。アラブ側は石油供給制限をつづけながらも、停戦に応じた。

イスラエルは、引きつづき67年の占領地を再奪取占領するまで戦争を止めなかった。この時のエジプト戦線でも、停戦違反を指揮していたのは後のシャロン首相である。

こうした中で、イラク、パレスチナ、リビア、南イエメンは、更なる戦争の継続を主張した。そして、イラクは石油取引収入を西側銀行に預金せず、引き出し、ドル建て支払いを取りやめて、金本位制による「アラブIMF」を作るよう訴えた。もしイラクの主張したように「アラブIMF」へと進めば、まったく違った世界が現れていたことだろう。

この戦略に対抗したのは、アメリカを頂点とするユダヤ資本であり、その実行者はキッシンジャーであった。サウジにこうしたイラクの主張を受け入れないように訴え、日本の「アラブ寄り」に仰天し、対策を練った。こうして資本主義国がバラバラにならないよう、反ソ反共戦略の下で、政治権力によって調整する必要を訴えて、先進国サミットG7を考え出した。これが、帝国主義資本側の戦略的教訓であった。以来、イラクバース党は、イラン革命によって米国の戦略変更するまでは、米国の非妥協な敵であった。

11. イラク政府の強権的動き

その後、10月戦争の停戦、交渉、アラブ領土返還



交渉がはじまる中で、「ミニ・パレスチナ国家案」が登場してくる。これは、それぞれの思惑が違っていた。PLOは全土解放戦略に立っていたし、アラブ諸国も同様であった。しかし、現実の力関係の中で、かつて拒否してきた47年のパレスチナ分割案でまとめようとする動きや、それも無理だから67年の戦争以前のラインに戻って、パレスチナ国家を考える国もあったし、ヨルダンなどはパレスチナ国家を認めず、ヨルダンへの併合を考えてきた。欧州や国際世論に訴えて、妥協できる建国の道が国際社会、ことに欧州社民勢力や非同盟諸国から乞われはじめていた。

こうした動きに対して、断固として反対したのは、PFLPとイラクバース党やレバノン共産党、南イエメン社会党などであった。「ミニ・パレスチナ国家案は、全土解放戦略を放棄した詭弁である。徹底して反対する」と立場を表明した。PFLP、イラクバース党は、74年2月26日にバグダッドでミニ・パレスチナ国家に対して、拒否戦線の結成を宣言した。

こうした政治的動きに連動して、イラク当局は権力を持つ治安当局(秘密警察)を中心にして、パレスチナ勢力への介入を強めた。この動きと時を同じくして、クルド弾圧を行い、クルド民族を支援する共産党への弾圧も始まった。

イラクバース党は、PLO傘下にALF(アラブ解放戦線)という、パレスチナイラクバース党系の組織を持っていた。イラクバース党と同じ政策をとってきたALFに加えて、イラク政府は、このミニ・パレスチナ国家路線をめぐる、大きな勢力であるファタハやPFLPと政治的協力ばかりか国家利害に絡む共闘を求めてきた。これまではPLOという統一体を尊重して、そのような介入は無かったらしい。

ファタハでは、アラファト路線をめぐる、ヨルダン内戦時の総括から揉めていたものが、「ミニ・パレスチナ国家案」をめぐる再燃した。これは、アブ・ニ

ダール本人の話したが、PLOのイラク事務所代表として掌握していたのは、アブ・ニダールらだったが、74年、ファタハから分裂した。彼らはファタハの革命評議会(中央委員会のようなもの)の多数派だった。アラファトが下野するか、指導部人事の変更と政策変更を求めた。アブ・ニダールらの主張によると、アラファトは少数派となると、すぐにPLO名でアブ・ニダールらを中国代表団として派遣させた。その間、電撃的陰謀的に組織再編を決定し、アラファトに反対する人々を役職から追放したという。アブ・ニダールらは、それを知って、自ら多数派を名乗り、「ファタハ革命協議会」の名で分裂、組織独立を余儀なくされたという。

イラクバース党は、アラファト路線に反対していたので、反アラファト派のアブ・ニダールらを支持した。そして、これまでPLOへの分担金としてイラク政府が支払ってきた膨大な援助金をPLOではなく「ファタハ革命協議会」に支出することに決めた。(これがファタハへの分担金かPLOへの分か、結局私にはわからなかったが、毎月百万ドルは超えていたらしい。)私から見ると、アブ・ニダールは、サダム・フセインと似たキャラクターの人である。中東地域のリーダーには多いタイプで、日本人のリーダーや英雄と違う。「押しても駄目なら、絶対押す」人なのだ。これは、

アラブの英雄のやり方で、引くのは恥ずかしいというプライドがあるらしい。アブ・ニダール派とイラクバース党は、以降共同し、対シリア戦闘にも参加し、対シリアサボタージュや暗殺もやり始めていた。

(つづく)

由井りょう子著「重信房子がいた時代」

OMI

「重信房子」を身近な友という視点からとらえた一冊。

学生時代の知人・友人、そして重信家の人々が語る彼女の姿に、当時の出来事と重信家の歴史を絡ませて、著者なりの房子像を描いている。そこには丹念な取材と誠意ある筆致で、マスコミや警察・検察が伝える重信像とは違った人物像が浮かび上がってくる。彼女の思いやりとやさしさが全編を通して綴られ、正義感と律儀さが、やがて彼女を赤軍派の指導部に押し出していく。その過程を直接知らない私たちは、筆者と共にあの激動の時代を振り返り、自分自身をそこに置き換えてみる。「自分だったらどうしたであろうか?」と。

これは重信房子の内面を深く追求したものではないが、彼女を知る入門書としてお薦めの本である。

後書

3・11東日本大震災から1年が過ぎました。東京では、3月10日・11日に知名人が参加する集会とデモが日比谷で行われるのを知っていました。他にもいろいろあったようです。でも、私は住んでいる板橋区の住民たちが集まってデモする「さようなら原発-板橋ウォーク」に参加しました。参加者は熟年層が多数派で600人と多くはありませんが、共産党、社民党、民社党、その他と、超党派の集まりというのが運動の新しい側面でした。熟年層中心というのは旧態然としていますが、超党派というのは、集会の目標である原発に反対する住民の意思の強固さを示していると思いました。同時に、幼児や犬までデモに加わって、笛と太鼓のにぎやかなデモでした。「子どもたちを被爆から守ろう」「自然エネルギー社会を作ろう」「すべての原発を廃炉にしろ」「マスコミは真実を報道しろ」「核燃料が板橋区を通過しているぞ」「板橋区は安全な給食を出せ」など叫んで歩きました。あちこちで、若い人たちが力をした3・11を心に刻む集会が開かれたはずなのに、新聞にはほとんど出ていません。それをメディアの怠慢ととらえず、「もう脱原発の運動は下火になりつつある」風の声が流されたり。そこで、3・11に日本中でいくつの集会があったのかを調べた人が居て、「分かった範囲で48箇所総計10万人が参加」とのこと。因みに、私が参加した「板橋ウォーク」はその中に入っていませんでした。下火になんかなっていません。深く広く広がっています。そして、情報隠しの政府や東電への不信は8割を越えています。人々は健康です。1月2月の東京と大阪でのエネルギー政策を問う国民投票を要求する署名集めはいずれも成功しています。今後の課題は、東京都議会や大阪市議会がそれを認めて国民投票を実行に移すようにさせることができるかどうかです。ぜひ実現しましょう。 Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

銀行口座 三井住友銀行 赤羽支店 226-3687269 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 110 号

- | | |
|-------------------|--|
| ① 表紙目次下から3行目 | <u>殉教者</u> → <u>殉難者</u> |
| ② 3P(1/12)2行目 | 最高 6°C <u>最高-5°C</u> → <u>最低-5°C</u> |
| ③ 3P(1/17)下から10行目 | 秋川 <u>ソプラノ</u> にも→秋川 <u>テノール</u> にも |
| ④ 4P左列5行目 | <u>裸木</u> → <u>裸木立</u> |
| ⑤ 7P(2/8)7行目 | 出張不在で <u>医務が</u> → <u>医務部長が</u> |
| ⑥ 7P右上から5行目 | 山本直樹さんが→山本直樹さんの |
| ⑦ 8P右下から15行目 | 2月8 <u>に</u> から行って→2月8 <u>日</u> から行って |
| ⑧ 9P(2/20)4行目 | <u>ギター怪談</u> → <u>ギター漫談</u> |
| ⑨ 9P左(2/20)下から2行目 | <u>クローカス</u> → <u>クロッカス</u> |
| ⑩ 10P(2/29)13行目 | 末梢神経障害は→末梢神経 <u>や</u> 気道障害は |
| ⑪ 10P(2/29)17行目 | 詳しく <u>いくつ</u> から→詳しく <u>いつ</u> から |
| ⑫ 15P下から14行、15行目 | 連合赤軍 <u>殉教者</u> 追悼
→連合赤軍 <u>殉難者</u> 追悼(2カ所) |